

諸家系譜

位
三枝 篠山 真方 真井

庫文官政太			
三九	三四九	和	書門
冊	架	函	號類

庫文閣内			
五八	三三五	三三四九	和書
架	冊	號	類

内閣文庫		
番號	和	32649
冊數	225(208)	
函號	156	23

共三百廿五内

共六十七



事有九言
在及由系子阮

法氏
三百九者
物田豊祐守

系譜

子、
二叔
法
出有是也

大市者
在及由系子阮
二叔是也

三枝

三枝氏

先祖者家系守國

仁明天皇御宇始賜姓

一條院御宇長德元年九月十九日

御宇年號大官指之大明作二十代三枝

在古虎在二男三枝古作古甲收國

后

三枝 三枝 三枝

三枝 三枝 三枝

三枝 三枝 三枝

三枝守國二十五代嫡流

三枝古作古甲古作古乙

三枝古作古甲古作古乙

嫡祖

賴寬

初任信守

後行善事

賴直

實賴寬子

享保五年壬午七月賴寬病卒

山背子三子石內子也

三子二男賴直五而石內子也

信同身十月朔日致之通方知也 係身
台是年中別升并之區向之及之係後公之
賴通亦係之當時山平法收和年由通代他
三教依理守系書之申也

賴辰

母

和家依後信之身收村太孫家而當時言在
先妻 仙名國海子宛
後妻 仙名國海子宛
仙名國海子宛
仙名國海子宛
仙名國海子宛

家承四丁亥年 月日之知江府野之右賴辰家
有任公所代享保五庚子年十月初日定父通房
甚重而賴竟致之通方知五而石之系系
番任細番系太孫之子孫承內年三月九日
即方馬代先任自之信申之
享保五丁亥年三月廿日初九日新島島者入
之任子初年修之身及之係後公之
但之係後公之係後公之係後公之
年三月廿日初九日新島島者入
之任子初年修之身及之係後公之
法石稻野院法泉令開

頼朝

後醍醐天皇

母

徳川氏系皇女

妻

信長

享徳十八年二月廿二日武蔵新田郡新田

頼朝

有徳公所代官保元二年九月七日頼朝

被武官遣下不意命多事痛恨

後小者信長初本帝命之支死

三月廿日信長初年有信長

頼朝上信長皇族之子年信長

初年信長皇族之子年信長

信長皇族之子年信長
子年信長皇族之子年信長
右内所兼信長皇族院院副合

頼朝

初徳三郎

後醍醐天皇

喜母

信長

実父

信長

信長皇族院院副合

実母

信長

妻

新田信長
信長皇族院院副合

永田直義女

寛保三年二月廿二日武蔵新田郡新田

三才右類解

將信云所代書曆六月子年之月四日春文類解
於此也云云子日 作身以武云新遠法家
以信如多也卷多故也 作信小書信細信白
云五部云云云云云云云云云云云云云云
云代云云云云云云云云云云云云云云

澄明云所代小書信担云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云
作身以信云云云云云云云云云云云云
担云云云云云云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云云云云云云云

報一

初孫名 後孫名

查父賴師妻乳名子以初孫名

查母名

畢慶有子名

查父

宋孫一節

查母

九勝氏女

查

查而賴師女

查曆八月某年十月日江府知生乳名

查子名賴師乳名

查丁為年七月十日查父賴師大坂在查

查

後明不

初孫名

查永七年某年十月日查賴師病在任同年

查有古昔賴師乳名

查但承并監如子乳名

查於漢四屋字馬

查任月一乳病年身信查

查查在任查水九屋

查查村 上慶相初孫

查所承以友也

查使舍於此馬

查

於此上處務村 上竟於初於
仰希以公物及我信日年之月言於對
馬場務村一流 上竟相物也
彼仁學所以務村也功身相物也
財者之世去和之友之信後今以及我信
天明三友并年二月也上處務村
上竟於初日年十月也田安之場
禮服君稱遠見務村也功身相物也
九月於度也上處務村
上竟於初日年十月也田安之場
損元有信信也 仰希以公物及我信

天明六申年分 實政也者也年上皆前
信天明六丙午年三月也初不也房國女
房邦平初也月信信也 仰希以公物及我信
上處務村 仰希以公物及我信
生初也白也代地也名也 仰希以公物及我信
上處務村 仰希以公物及我信
子佩村門後信也
實政也者也年上皆前
天明六申年分 實政也者也年上皆前
信天明六丙午年三月也初不也房國女
房邦平初也月信信也 仰希以公物及我信
上處務村 仰希以公物及我信
生初也白也代地也名也 仰希以公物及我信
上處務村 仰希以公物及我信
子佩村門後信也

高六石上迄四

初小車安
七角式元

在倉友表二番所

寛政之末年三月

三枚高而納一册

未四十二元

未四十二元
松平信濃守

法氏
九拾四番

始田豊前守

系譜

三枚

仰書院者

松平信濃守

三枚源氏

三枝姓

三枝

大將軍右軍大印三枝姓守回号大官松
建大以神

二十七代嫡流三枝松茂子守金三男

三枝

三枝松

三枝

三枝松

三枝

三枝門兩

守金三男

守仍

守仍 初若又卿

母

小女之隔子三子女

喜

大正信方子信喜女

岩首院柳氏

明曆二酉年九月九日武列信合初生信
延宝四酉辰年三月六日又信茂子守金

初生信之也信之也信之也信之也
助守之也信之也信之也信之也
小番信之也信之也信之也信之也
年有古

信之也信之也信之也信之也

右勅中白自方三丙是年六月日知事
相之方清書曰 仰身以知事
在七百二千一第之病長仕之
上第中白法名全字宗完

守一 平定所 初名村子

長母 大思侍方子信重女

長父 三叔平定所方房之男

長母 源女

妻 菅氏

天和三年 庚午年 月日 知事 菅氏 信重 氏 氏

常憲院御所代 右平定所守一 仰身以知事

長子 長女 自方三丙是年三月十日長
長同長女長女 仰身以知事 仰身以知事
仰身以知事 仰身以知事 仰身以知事

元祿十一年 庚午年 月日 知事 菅氏 信重 氏 氏
仰身以知事 仰身以知事 仰身以知事

仰身以知事 仰身以知事 仰身以知事
仰身以知事 仰身以知事 仰身以知事

元祿十一年 庚午年 月日 知事 菅氏 信重 氏 氏

仰身以知事 仰身以知事 仰身以知事
仰身以知事 仰身以知事 仰身以知事

法名寒松院光山孝宗侯

庸清 五永

母

家女

享保三年七月廿六日

清武 九十而

清武 九十而

母

家女

享保二年三月廿六日

女子

女子

母

家女

年月日

禁裏

守高

守高

知名

后田新八郎利休女

母

家女

享保三年

享保三年

享保三年

享保三年

澄明院

守高

御方乃能為代缺上在在同年六月廿四日
此 仰有傳書院書去後法以之德
同年九月朔日強河書法服
仰自是任德拾教深任任同三月申年九
月十書海府
同年六月廿四日為之正德
未年正月十日書病年方於
法允中書法
仰有之府
如同七年八月廿七日書法
在如不天明六年九月廿七日
乃福在任或州麻布

法若意光院義雲道

身信 內化切名

母

高利

天明六年七月廿七日

馬

勝

母

和

天明二年七月廿七日
任
此所
除

作身

守之

教母

母

教母

右教母及兄弟等
皆在正月廿九日
正月廿九日病狀

守信

四代

初名氏師

養母

養母

養父

養父

妻

妻

延享二年正月十四日
當時代有月記
天明六年正月七日
傳才少少清細
年十二月廿七日
傳才少少清細
別細少少清細
正百四年正月
上卷中少少清細

天明六年正月七日
傳才少少清細
年十二月廿七日
傳才少少清細
別細少少清細
正百四年正月
上卷中少少清細

守與

守與

守與

守與

寄由 江州

抄要

抄本信條

三白之志

天保六年八月六日
在江州物知新書部
御承之私書
門及之
抄本信條
事長七信
天保六年八月六日
在江州物知新書部
御承之私書
門及之
抄本信條
事長七信

高石石上野中

江州信條

天保六年八月六日

寛政十一

三教

[Faint, mostly illegible handwritten text on the right page]

赤三目致白

松平忠清致白

徳氏

九拾七番

松田忠清

景濤

子

三枝

栗宗此但

松平忠清

三枝年六節

源姓

三夜

仁明天皇御宇右軍守國權三夜姓後
源姓以右左軍大將守國二十六年後亂
源氏入三夜丹波守守德連源三夜左衛
守右衛門

幕役

九月廿三日

幕役

九月廿三日

幕役

九月廿三日

長安守吉良男

長安守

守知

母

三夜平吉良男

妻

川井小左衛門女

年月日不知

十國守野國

長十九甲兵年九月日不知

神君

神君元任大坂右大臣源氏任

神君元任元和二年九月日不知

神君元任元和二年九月日不知

神君元任元和二年九月日不知

碧海之石五... 河大... 何... 石... 河... 獲... 者

大猷

石... 河... 獲... 者... 石... 河... 獲... 者

文九... 自... 年... 三... 月... 初... 回... 國... 師... 年... 終... 病... 死... 任... 官... 號... 係... 州... 呂... 莫

病死任官號係州呂莫

私... 祖... 父... 名... 貴... 身... 系... 統... 統... 之... 節... 書... 物... 統

失... 任... 官... 如... 不... 知

守業

平六郎

母

家女

實父

小... 實... 父... 名... 貴... 身... 系... 統... 統... 之... 節... 書... 物... 統

實母

三... 枝... 實... 母... 名... 貴... 身... 系... 統... 統... 之... 節... 書... 物... 統

實妻

中國皇國

年... 月... 日... 乙... 卯... 年... 三... 月... 初... 回... 國... 師... 年... 終... 病... 死... 任... 官... 號... 係... 州... 呂... 莫

寬... 文... 九... 乙... 卯... 年... 三... 月... 初... 回... 國... 師... 年... 終... 病... 死... 任... 官... 號... 係... 州... 呂... 莫

有... 子... 而... 代... 寬... 文... 九... 乙... 卯... 年... 三... 月... 初... 回... 國... 師... 年... 終... 病... 死... 任... 官... 號... 係... 州... 呂... 莫

書... 如... 少... 結... 實... 父... 名... 貴... 身... 系... 統... 統... 之... 節... 書... 物... 統

萬... 年... 九... 月... 十... 日... 卒... 年... 七... 十... 歲... 葬... 法... 寺... 而... 卒... 後... 正

葬法寺而卒後正

正胤

五郎

享保六年己卯八月廿五日吉小書信細田守
野次文院小夏兼女正知書子

國中

今八年

母

妻

孫女

書信細田之孫守子院
喜心林之坊幸慶女

元禄志志安申年二月廿七日

有任之市代享保十一年九月朔父喜慶與後

野次兼守院之節

御月之任之文也己未年六月廿九日於屋

果性廻望川山城守領下 守女 伴信切

福二百信守 至杉年左守信及之伴信

寬延己未年六月廿七日仙公母信子廻信

兼所育同年七月二日流小書信合伴信

和守大守子院院入 享保二年申年六月廿

七日申流守院院入 伴信河城守院

伴信同申年三月二日父喜慶之病死伴信

同月廿五日父院院守院守院院院院院院

伴信同申年八月廿三日申年三月廿六日病

重二月廿九日申年三月廿六日 伴信山守院

父院入以和八年十月廿九日守院院院院

神尾子孫之系
豐田左衛門左衛門
安永四年四月十日

豊川中尾子孫之系

孝恭公薨御以後同日
安永四年四月十日

所由九右衛門檢校平因防之
天の元 安永四年五月十日

所由西左衛門檢校平因防之
同日 安永四年五月十日

大納言藤原家
同日 安永四年七月十日

所由左衛門檢校平因防之
同日 安永四年七月十日

百連右衛門左衛門藤原家
同日 安永四年七月十日

所由左衛門檢校平因防之
同日 安永四年七月十日

所由左衛門檢校平因防之
同日 安永四年七月十日

所由左衛門檢校平因防之
同日 安永四年七月十日

女子

母 同日

安永七年七月十日
所由左衛門檢校平因防之

所由左衛門檢校平因防之

女子

母 同上

兄弟係方及分、孫等、

身友 林、西

母 同上

同以

身中

小三節

喜母

中更母友

神保庫之武園女

小喜信祖神元若後之元

喜母

三教介改節園中女

實友

友合

四指野持助三務三男

私事男子言升在、身中此但信此至所射但良
在、身中實物、信此在、身中此信此至所射但良
三月十日、信此在、身中此信此至所射但良
信此在、身中此信此至所射但良

身中 西、北、北、北、北

三田百石、信、信

印、印、印、印、印

洋紙、信、信、信、信

實友、一、一、一、一、一

三教、六、節、五

永井大和守

系譜

三枝

九拾五番 堀田豊前守

仰止組永井大和守
三枝監物

定改之... 年... 組... 事... 友...
 以... 長... 系... 係... 內... 究...
 堅... 年... 月... 昔... 以... 之... 涉... 危... 大... 的...
 上... 實... 作... 有... 時... 以... 一... 手... 持... 似... 在...
 處... 古... 金... 中... 右... 去... 見... 以... 十... 年...
 年... 上... 之... 委... 由... 德... 下... 一... 委... 任...
 供... 方... 右... 圖... 條... 如... 陳... 中... 委... 了... 終...
 傷... 一... 以... 及... 申... 之... 以... 之...

二月... 三教... 監... 知...

三教姓

三教

大將軍... 年... 六... 年... 三... 教... 子... 圖... 甲... 列... 以... 代... 於... 野...
 呂... 村... 大... 三... 播... 之... 大... 水... 神... 二... 十... 代... 末... 流... 三... 教... 丹...
 彼... 子... 年... 信... 教... 三... 教... 在... 野... 虎... 古... 強... 列...
 田... 中... 之... 極... 在... 任... 信...

幕... 三教

三教

幕... 三教

三教

幕... 三教

三教

幕... 三教

右親

葉刊

武田信玄房小北初寛永十三年
二月廿七日申時生
華法在壽辰宗務

守春

始刊

葉刊

源氏大納言忠長房小北初寛永
絶之度更和二年申時生
福元仕四谷戒以守華
法若彌經院常念口克

守重

母

甲列多於初生

合九信長房女

妻

在信長

信長房女信長

寛永十五年甲申生

教有信長代寛文二年三月廿五日同生

四月

法陽之師小北初信長房女 保月同生十月

法切系二百儀信長房女 延享七年未生

九月廿七日申時生 保月出如信長房

保月出如信長房 九月廿七日申時生

保月出如信長房 九月廿七日申時生

室永元甲申年三月廿

文昭云为仲養君西亮上為 今長沙供仕

同年三月十日西九初

任身一室永元百零七年七月廿五日西九初

子思一室永元 你身極因於所成將

負以抄勒下良之祖口念子於之孫物子

同心百運一室永元七原五年七月廿五日西九初

坐身最後所免子於於少年又同年十月廿五日

陽而九之身 百零七年七月廿五日西九初

法大之孫德源子德入百零二年七月廿五日

壽子少身百零七年七月廿五日西九初

波若王智院寺山九堂

守道

年八節

甲州車取院寺上

母 今九傳屋屋女

常善之所代天和一五年九月廿五日西九初

信少節身類

文昭云 新秋子 百零七年七月廿五日西九初

其由申年九月廿五日極田院寺於少中人

身以 你身極因於所成將

之既之教定吾守德家之子

女子

母

平性但留去和也
福生女之進也或妻
左尾南公初也子仁
服部初也之妻信女

守越

母

弟同

津原院藤原人

妻

小林念十郎初妻

天和二年庚午月日未詳生

父昭公清代富水公也其年四月三日没於和信

弟同 津原院藤原初妻藤原

細江公三言依之知事藤原二月日身入

月三之文清公而後武之身也 同十二年身

有德寺代日光寺社事 弟依及之身也

弟同 同身 同身 九月全田用身

細江初一初年身也 弟同身 同身 同身

古首初也色也者 弟同身 同身 同身

作身小田初也色也者 弟同身 同身 同身

年二月命全田身也 弟同身 同身 同身

日身四月身也色也者 弟同身 同身 同身

弟同身 同身 同身 同身 同身

死身同身 弟同身 同身 同身

奇方

丹

毒

後毒

後毒

寶保元... 八月廿五日... 小書...

... 延和...

... 延和...

... 延和...

... 延和...

... 延和...

... 延和...

年二月廿七日... 延和...

酒并... 延和...

目是... 延和...

世六... 延和...

乙亥... 延和...

仁内... 延和...

... 延和...

天明... 延和...

... 延和...

... 延和...

口年八月昔... 守行 右内

母 山書院友室... 流...

宝曆十一辛巳年七月... 守行

女子 母 早世 同日

女子 母 同日

女子 母 小杜反市西南妻

女子 母 西在... 同日

女子 母 同日

女子 母 同日

能替甲子而教身居德也

始事父之志 德智深矣 文類中 嫁以水磨烟水
慈年之 探其至 病死 仕令 身離 則于後
大所 番建 經勿 也 只 他 幼 年 在 處 方 嫁 申 之
守 幹 始 傳 而 宣 均

紀行做醫作

廣年春德同夫女

母

妻

以和四十五年二月廿四日江戶生
社公定改元百八年八月廿九日父傳古節於
在陽右家督也 作其小書信若田女

房事之死 如人同八百及年六月二日

番入女 作其小性也 枉平信信也 也 也

孝次郎

守政

母

若同

安永六丁酉年九月廿三日小十人但志野

店外之收在系子表表子也 也

大所其系田家房也

梶川在名信正盛妻

女子

大書院處 枉平也 也

藏田七郎之信正如女

母

女子

早世

西尾也之氏喜之氏海守之氏

有馬伴藏尚久女

女子

母

未同

某

植之節

早世

母

未同

女子

母

未同

右通清所公以上

高四百侯

本小甲斐

生國為亮

海所在勿安麻布市之橋町中ノ所

寛政十三年

三枚笠相印

書背表紙

京藩

津田少佐未立月録

九拾番 坂田豊彦

西丸小姓他
津田少佐他
三枝何彦

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

覺

西序在平江也

山田隆房也

三枚傳藏

私藏

寛政十一年西在平江性德田

出藏也其系隆房也

初代証書系書之也相書友

乃也

初代

帝意院棟濟代

元禄八年七月十日平

守房致書了色了八百石内忍从

平了守次上其石不次男信長身後

上後侍替了三百俵命知

作分石了以於老信了後

信房

三代目守補子之也白由達

言了幼了年牛次了也

三代目

守補

弁帝 隆房 信長

女子

母

三枚傳系守長妻

加后之反貞則女

早世

母 右目

右目色西行

子 七月

三枝傳藏

源姓

三枝

仁丹左衛門守左衛門守源氏三枝性後
源氏以右左衛門守源氏二十四代後胤三枝
者源氏左衛門守源氏三枝性後

先祖三枝平右衛門守源氏三枝性後
南村西九郎守源氏三枝性後守貴方
書出 申

幕一紋

九三枝松

家一紋

九三枝松

三枝年長(年房二曾)

守隆

五門 侍從 侍從

母

家女

妻

小出(卷)貞別女

文憲(長)年年月日(不知)武則(不知)生

常憲院棟所代

元禄八(長)年年七月十九日(平)守房(新)生

以(長)原(平)喜(守)次(長)武(守)如(通)生

以(長)原(平)喜(守)次(長)武(守)如(通)生

十九日(小)書(清)中(根)大(湯)生(不知)之(長)生

元年八月十九日(人)似(不知)相(不知)生

作(長)院(日)年(十)月(二)日(心)生(不知)作(長)日(三)

乙卯年(三)月(六)日(沙)書(院)書(大)生(不知)生

上(不知)入(不知)作(長)院(守)保(九)甲(辰)年

信院棟

長福(不知)生(不知)生(不知)生

年(十)月(九)日(沙)使(頭)生(不知)生(不知)生

上(長)院(守)保(九)甲(辰)年

年(十)月(九)日(沙)使(頭)生(不知)生(不知)生

上(長)院(守)保(九)甲(辰)年

二月(十)日 禁裏(附)一(不知)生

上元門年四月朔日京師法帳(云云)令
 五及町版之(云云)月(云云)任(云云)年四月
 廿三日(云云)任(云云)事(云云)任(云云)任
 没(云云)年(云云)月(云云)日(云云)本所(云云)目(云云)
 通(云云)任(云云)任(云云)任(云云)任(云云)任
 基(云云)任(云云)任(云云)任(云云)任(云云)任
 延(云云)年(云云)月(云云)日(云云)任(云云)任
 又(云云)任(云云)任(云云)任(云云)任(云云)任
 於(云云)任(云云)任(云云)任(云云)任(云云)任
 士(云云)任(云云)任(云云)任(云云)任(云云)任
 了(云云)任(云云)任(云云)任(云云)任(云云)任

寛延四年未年正月廿二日(云云)任(云云)任
 同年正月二日(云云)任(云云)任
 同年三月七日(云云)任(云云)任
 中(云云)任(云云)任(云云)任(云云)任
 云(云云)任(云云)任(云云)任(云云)任
 諸(云云)任(云云)任(云云)任(云云)任

守經ツ子

赤菅 侍

- 貴母 小出(云云)貞別女
- 実父 三股(云云)守次(云云)
- 実母 柘栲(云云)忠(云云)女

妻

三枝伊勢守隆長女

宣長相(有)許(有)由(有)印(有)三枝平高守二女

行個(有)以(有)高(有)申(有)

妻

今井平四好昌女

正徳元年卯年月日之知書列(有)也

右伊勢守隆長女伊勢守隆長子守隆男守隆長子

宣保十三甲申年十月十三日(有)在(有)年(有)長(有)子

宣保十三甲申年三月十八日(有)在(有)年(有)長(有)子

宣保十三甲申年三月十八日(有)在(有)年(有)長(有)子

此(有)

有徳院(有)下(有)月(有)見(有)仁(有)寛(有)延(有)四(有)年(有)未(有)年(有)四(有)月(有)三(有)日

長父伊勢守隆長(有)在(有)延(有)長(有)年(有)伊(有)勢(有)守(有)隆(有)長(有)子(有)守(有)隆(有)男(有)守(有)隆(有)長(有)子(有)守(有)隆(有)男(有)守(有)隆(有)長(有)子

宣保十三甲申年三月十八日(有)在(有)年(有)長(有)子

付形之在清書 涉之小書法令 付有
 且年矣少之也印 牙力而慶至合少及下
 至一有 枉年大系幸之慶 作清小書法令
 田孫之文氏 一或同年十月十九日就 色隱
 辰法公年三月日之秋書利發付古有七以
 名付之天月二至宣年九月八日年七十五
 病死之其葬在武列下若云云云
 常說洗法教是
 二枚付藏守原書

守編

芥三郎 絶在卯 伊三吉

養母 河内平次五郎中
 今年年口好昌也
 實ハ他母之好也父之他母也
 其母之好也

実母 二枚付藏守原書

妻 大津番お初
 加履之殿貞別也

元文四乙未年正月二日武列之書生
 安永九年子年十月十九日父信系守原書
 貞治元年 作有安曾之書生 伊三吉
 守編ト下至公分 枉年大系幸之慶 色隱

毒

三枝行幸守編女

宝曆十二年未年日月廿百去外生私
 後明院所許代書父行幸守編男子等存
 後之書等存也存幸男子は存院許中收但
 上更法守但一節多致は如天明五己年十月
 四日致通幸女子也 作存の書の如
 多及は作存の長水之更法守一節同八
 年七月廿六日長父行幸守編預之在院在
 作存の家督之如通私と存の如
 存是存及は作存の長父時は存信後之
 久之存之文記は存南の立祝文記は存中實改

二庚戌年三月十一日津田入也 作存の如
 平和泉之及は作存の如也但存の存也
 入内夜甲也也但存同七己年三月廿
 少倉系行幸守但存中は存の存也
 却一門八庚辰年三月十日武田の如也

大細言存所附西北也 作存の如也
 作存の如也武田の如也
 同十一己未年三月十日津田の如也

某 世也 早也

女子 毎
 加履之反頁別女
 三枚傳藏守長妻
 右同

守教 毎
 弁三席
 三枚傳之滿守編女

守量 毎
 長次席
 右同

守次 毎
 台揚
 右同

右ノ通り行方以上

高三百依 小早装 出箇本房 物成 金衣本所 守目

寛政十一年
 三枚傳花_{三十七}五

三
二枚
三枚

系編

未
三月廿九日
戸田中務少輔

九
九百三拾五番。堀田中務少輔

小普尾堀田中務少輔

三枚定在

三枝氏

三枝

先祖父守三枝守國

仁明天皇端三枝姓依家名守國

幕之紋

丸之内之列

留之紋

口之

家之紋

地白之紋

右守左守三枝守國二十七代孫三枝之内

守春次男

守志

平八郎

母

家女

妻

依田甚之守妻

本年新年月日之知

常憲院祿所代天和二年九月十九日三枝氏

七那依預楊田所履

文昭公新親王 百七十八人 依田守國

依田守國 依田守國 依田守國

守禮

母

依田長房の守禮女

元禄之辰年月日之知江戶生

父平命初自之長房田原及此定之在御子

心作年百五十八歳之至小普信之室

永二酉年正月廿九日病死信十分兼自守

葬法名佛光院之收

女子

兄守禮養女

母

兼同

盈守

初十帝

後十帝

後十帝

養母

号

妻

三枝信七郎守禮養女

実父

依田長房の守秀二男

実母

相山法庵女

年月日之知新之知生

宝永二酉年正月廿九日病死信十分兼自守

男子年百五十八歳之至小普信之室

死同廿九日病死信十分兼自守

葬法名佛光院之收

有章公清代正徳三年六月十八日小十人廻り入

手後飯田惣屋の但病氣身多欠小書込入

正享元子年二月二日病死衣同寺葬号

山宮院准常日行

養女 養子 三枝五郎の盈守妻

実小三枝信七郎守持女

依田甚五郎の頼秀女

守明

三枝信七郎守持養女

七代

享保七年六月日之知江产生

但上比田投了但下番合 作付之文三年

六月八日刑於人殿迫り番合 作付の寛保

四年六月二日父政成より五人延享三

亥年十二月二日之方山細戸上清番給

作付の家傳七丑年十二月廿二日松本苑経

組新出者上清番給 作付の安永二己年

九月廿八日病死六十四歳同寺葬号

山宮院智運日利

守景

作付

母

未詳

年月日未詳

徳川刑部卿殿下新親王

正徳十一年

八月十日病歿

妻

付系

正家以後未詳

女子

母

家女

村井氏(書)妻

守壽

初生系

後生系

妻母

家女

妻

三枝七次郎守月女

実父

三枝五郎政明二男

実母

家女

享保二十九年八月日未詳

惇信云所代表父三枝七次郎守月女

正徳九年八月十日病歿

父七次郎病歿日八月十日

正徳九年八月十日病歿

仁世平九帝之孫入堀田之次支那之帝曰
 三年九月十九日小十人傳入和年
 在出宮殿之休濟松浦長子傳令全後
 神尾内記祖之帝曰五年四月日光
 濟社系法供也 作有浪平及期於江
 于存志堂在會之他之帝曰二酉年九月
 廿四日於中上之庭大的 上院也 作有
 時值了相以云以之五年十月八日於門初
 大的 上院也 作有時值了為以日七
 未年八月三日病卒年終之無小番法
 不 作有酒井周福之次入日八申年

六月二日病死廿四日采衣同寺葬号
 誠諦院宗信日解

某

母

家女

享保三申年正月九日病死也

女子

母

家女

三枝長之湯守壽喜

女子

母

家女

江合葉之邑尾喜

始室曆九年正月刻法書坊年也其也

多田新太郎方古嫁りて不嫁守齋家
後安永八年三月に谷守齋色男方古
嫁申す

来

実父

右長倉男子守齋方古男
安永八年九月十日に嫁りて色男
守齋方古男三月朔に病死す
守齋方古男清之院に定置す

来

佐倉

実父

先齋子孝方所 父病死仕合右佐倉
守齋方古男守齋方古男九年三月
十日に嫁りて色男守齋方古男
天明二年九月廿八日実方古男所

来

守齋

三枚名之婿守齋方古男

実父

元大い高知守齋方古男
右田十所合(次男)

之は孝子孝女節。病死は後孝子徳久の家
より長庚下は右在重節。後天云云。長庚は
春子守教天四辰年二月十日。長庚は
子守。作付は左不嫁。身日七未年四月七日
他トウ カ 実守 長庚中

守他

長母

三枝長津節守明女

妻

三枝長津節守壽女

実父

依田五七守奥四男

実母

依田五七守奥女

安永元辰年十月廿九日江戸生

私父長父三夜長長痛天の八申年九月病卒元

作付は左不嫁。身日七未年四月七日

同病。三夜長長痛天の八申年九月病卒元

甲辰年三月五日。同五申年九月十日。長

長庚は左死。身日七未年六月八日。大田

守智三夜長長痛天の八申年九月十日。長

作付は左不嫁。身日七未年四月七日

三夜長長痛天の八申年九月十日。長

三夜長長痛天の八申年九月十日。長

女子

三夜長長痛天の八申年九月十日。長

母

三夜長八所守以女

守高

源長

母

三夜七高守壽女

高万壽八儀

本國甲斐

中國東山

源氏高安四ノ若因度新也安上、新所

寛政十年十一月

三枚定右二十七少五

了
大伴

系譜

末十ノリノ下
松平信房

法外
九拾五
○
堀田

山崎
松平信房
山崎

十郎系高田正外右之傳之介系高田正之入
清光江之系春系高田年五知之山由光
山江之傳之介之居野村大禪寺系高
桂尾院照雲

景尚

系十郎

母

不知

年月不知傳國也
系七五庚子八月朔日他之於
山江之傳之介之居野村大禪寺
紫雲院系高

資俊

系高

不知

母

不知

所出

妻

三好周備守一任女

云云四子年月日不知傳國也
父景春先系十郎系高田正外右之傳之介
有母系次男資俊三男長右資俊右連
江州山中系高田正外右之傳之介
已後資俊也
清根系高田正外右之傳之介
右系高田正外右之傳之介

國無山嶽主其在下時也古者城人正使義
 之如道法在社之城之柳堂也每歲
 相平下信事上行後十人父系壽同不家也
 秀行及叔守勢列沙秋代在法代官
 叔和法之律一節於此也其野出所任
 以之其有夢一在名系 上之野出野
 淨操和任今不持任右法代官不
 正却定任上之方候每年可其也其功定之
 之作身以有海尉一也其也其南河治也
 二清操和者中其也其於今年一也功定之
 之作身也其道任上 清國也 其也其

所書以載任今不持任右法代官字

幣列子百答錄也

依之件

天長十六年三月廿八日

藤山

新通津代書 津免七後江戶後府知事
 大坂津津之書 房事合大坂府知事丹邊
 組、多岐房、津代書
 右徳院承所代寛永二丁丑年十月廿三日近室
 口受部名唐時付之知行四百八十石下名
 所利物及裁は今、不仕合在判知字

近江國甲斐郡

大系多指野村内
 四百八拾石、下名
 林ゆ、死存之部

行を也

寛永二 所判
 十月廿三日
 徳山院代書之

寛永二丁丑年十月廿三日近室
 作有杉平之隔、但、此、同十、酉年二月
 七日近津加信二百石下名、至、於、金、二百、石、下、名、
 此、成、日、上、丁、丑、年、二、月、廿、六、日、死、也、此、部
 甲、受、部、名、唐、時、付、大、坂、府、知、事、丹、邊、房、事、
 知、光、院、了、部

資音

長吉

母

不知

右德院保元代年月之知小性西宮公女
右出高村小普清但取教道以字子孫
山吉是家之姓也

資良

小性

良次

母

三好因幡守位一母

妻

不知

奥津南宮良次女

三上名十三日申年日月之知近江守出生

右德院保元代寛永二己丑年月日之知近江守

大寺番之伴水此保後之但入同四丁年

月日不知二百石之石同六己巳年月日之知

出給儀之加保之石同十交酉年二月七日之知

石出之保場之石同百五十石於上段園知行

物領仁日十二己亥年月日之知父保後之

六百八十石之石同石同石保後之石同百五十

石之石同石同石同石保後之石同百五十

石之法之代石之石同石同石保後之石同百五十

水野之石同石同石同石保後之石同百五十

右有院保元之附平之石同石同石保後之石同百五十

辛卯年月日之知

所奉先上清供... 未年四月
朔日四十八日死年达風林寺... 葬号
清休院淨心

資友

平左衛門

母

所出役

三好同佛子一任女

安三庚寅年九月三日... 組... 平左衛門家... 所出役

資門

平左衛門

三好

奥は南條(良次女)

母

喜

大寺の御

平左衛門家藤氏女

寛永八年辛巳年月日之知表列生

安三元年三月三日

友有院林... 於二九

清自見... 沙... 治

了代... 以... 曆... 己未年... 二月... 昔父... 理... 兵... 傍... 武... 不... 室... 小... 曹... 信... 但... 宿... 飯... 若... 膳... 也... 入... 年... 月... 之... 知... 表... 目... 沙... 北... 治... 了... 代... 御... 門... 三... 丁... 酉... 年... 十... 月... 廿... 日... 大... 清... 番... 氏... 作... 身... 是... 於... 母... 氏... 子... 組... 入... 延... 出... 四... 百... 辰... 年... 二... 月... 七... 日... 御... 氏... 以... 氏... 作... 身...

帝憲院... 天... 無... 二... 子... 戊... 年... 四... 月... 廿... 二... 日... 百... 層

清和增修任仕致后了八百八拾二歳之辰
六受酉年六月廿六日大津藩行桐之孫也
少以長病年牙致し色所収後其小
香信組場田の河之池に合十二歳未年首
高病年牙致し色所収後其小
八拾二の内二百八十二男小僧出立其後
分知仕守水二二百年五月十五日十七死
年込風林寺葬

政興

世系

母

之部

奥津南守良次女

延宝六戊午年五月廿四日所代波高室如所政
御長子之身也
酒依平盛良忠妻

女子

母

之部

奥津南守良次女

興晴

世系

母

大津南守

松平春之介信義女

妻

帝治一五年

松平春之介信義女

寛文一戊申年月日不知或列如生

母

大正四年
松平豊子 徳成女
宝永四丁亥年七月廿一日 法政外科板本
養女 資平 貴子 好子

女子

大正四年
本多 徳成子 徳成
大正四年
松平 共 徳成女

母

春女

小野 徳成子 徳成
小野 助九郎 忠久 妻
徳成子 徳成
依 徳成 徳成女

実父

実母

山崎 四郎 介 子 加 女

光官

母

松平 大進 乃 徳成 清 徳成
西尾 徳成 院 乃 徳成 乃 徳成
松平 大進 乃 長 徳成 女

妻

延享二年 亥年 九月 廿七 日 死

後妻

黒川 左 乃 徳成 妻 女
寛延元年 辰年 十二月 廿六 日 死
松平 大進 乃 成 眞 女

寛延元年 辰年 十二月 廿六 日 死

後妻

天保二丙午年七月十四日

享保之丙申年八月七日

有德院存代之立

山吹之方安智

大竹言

後明院存代

安永二

天保二

天保二

天保二

天保二

孝泰院存代

孝泰院存代

孝泰院存代

孝泰院存代

孝泰院存代

孝泰院存代

孝泰院存代

孝泰院存代

孝泰院存代

當清江代天於六百年年宣十月廿日

清江代天於六百年年宣十月廿日

清江代天於六百年年宣十月廿日

清江代天於六百年年宣十月廿日

清江代天於六百年年宣十月廿日

清江代天於六百年年宣十月廿日

清江代天於六百年年宣十月廿日

清江代天於六百年年宣十月廿日

清江代天於六百年年宣十月廿日

具伴

養母

由多仍念成其女

實父

深津賴母正高次男

實母

為 勘屋定家女

長享四丁卯年月日之知武江如生

右五節 漢字西行公家曆十三亥未年十二月

廿二日寅時生 作身公家 安永二亥巳年

正月廿九日二十八亥巳死

号 寿光院線山

資房

養母

如多化登の成具女

実父

三宅保平の徳吉四男

実母

村敏三子而正妻女

宝曆六年三月十八日武州生

右三宅而正妻三宅正子

安永二年九月二日養母子信長子天啓

二年三月廿二日養父有徳克官心

下りて身三宅而正妻正子

女子

母

黒川左門盛子

右女子藤山三郎部年長子信長子天啓

実方右藤山三郎部年長子信長子天啓

資明

養母

如多化登の成具女

実父

坂中春安深田次男

実母

家女

善信組出右而正妻

妻

京極傳助子貞妹

寛政五年正月十四日信長組

行身婚媾お移下ル家存同十戌年年十一
月廿四日丹方熟談之上離縁仕仕

小重信但田中誓子宛長此書成法長子奉

後書

長野初貞成式女

以和三百戌年二月廿四日去別古生

右社父方長身遠く後天以二之亥年

七月六日就く在居子以 行身日七未年也

月六日婚也 行身見仕侍方法之代整

寛政二庚戌年十月九日養父君の物取仕

下系不書信但務田安庭子之宛、亦同身

上月廿五日種月之礼了上流之代額之日也

子年上月廿七日始并紀行了之宛、上御信書

院番清菊令々 行身中防也信但之其

後版之代留寛政十戌年九月廿日打年

任信多組、信比後版信行不之志書原

八亥卯年三月六日年込迄、大之新焼仕

京大坂立身之代目資後三代目資良良代

目資門、事之版是毎お初流信物系立役

亦お初中書由未方之新焼之長焼矣

任不寛政七戌年三月廿日小合也原初

之長近馬也初中書之御者詰了也仕行方

宣政二年四月十九日
清和天皇御行幸於河原
上流御幸御行幸於河原
御幸御行幸於河原

養女

宣父

大井七郎高島良女
多田市衛正壽妻
小善信但山古即本末死

女子 早世

本末 傳入 知子 貞妹
小善信但山古即本末死

右通、清和天皇

高五百石 通定 本國行勢 長久安
相模公 生國本死 衰四番町

宣政二年辛酉 蘇山熊三郎五

先祖書

六傳
大正村涼

法氏
子普深山
堀田

新世
許知厚
藤山伊織

村上源姓

藤山本苗北島

村上天皇之皇子具平親王之後胤北島正三位權大納言雅家之末孫伊勢守信人北島正二位大納言村親次男九中為頭雅四代源北島備後守親實伊勢國藤山信長後依古令藤山信實園景春之以後家為當時所書院處村平信實子他藤山德三郎資明方不書上十人

初賜之紋

空桐

赤之紋

花模本几个下古川

紫收

三之巴

幕之紋

六七桐三之巴

藤山以金系春不忠代藤山景之資門次男

資容

大所書以

母

村平景春之孫女

小書清和年三中以但

事

官寄助之末孫女

白之紋

貞享三之五年二月朔日初

常憲云所自之信之源之末孫年七月廿二日父

日年甲子音記式子送之小公方松平
伊豆方後、作後小善清、遊川法、後、
享保十二丁未年四月十日、新善、夜、
上、以、命、行、身、于、後、
如、多、以、八、席、
病、死、二十、日、葬、比、上、日、法、名、
至、相、院、安、名、令、住、持、士、

祐遠

合名 仍并

實父

下、清、院、跡、三、男

實母

八、日、寺、干、人、
窪、田、清、高、具、次、女

妻

大、清、院、之、長、女、

有德院稱神代長父在右賢率、
冰、解、但、如、印、
病、兼、去、重、男、子、
九、月、二、日、
田、七、倉、
辰、年、

西元沙路のりあふ
二月十日西元新沙番留
左組入柳生権藤了組
九月廿七日病死二十
正法院藏了服居士

資宣

初名流石 後たふ

抄

紀伊守

大流守公長女

二子

惇信乙所代父信五郎祐是至西元新沙路柳生

江戶の知生

精進組と申定毎上西元九月廿七日病
死仁同年官二月廿日秋之終武平少遠と申至
以首隔昇る所及と作後小善信組日井乃免
立此決必其後後と立此留神保甲山と立此長
澄月と所月見と年月日と知申和丑子年正月
十九日大沙番留入と作有組後と申入原
大坂と申五度と申と後と申下申と申と申
病床と申小善信入會預と申と申永九度と申
三月十日と申と申と申と申と申と申と申
用防と申及と申病と申後清と申書と申本と申水
申と申流永井と申知と申と申と申其後病と申有

信國

母

右同

正徳

母

右同

女子

母

早世

右同

女子

母

上同

天明六年二月十六日病死年十二歳葬地首

女子

母

上同

女子

母

上同

女子

母

上同

資高

好松

女子

母

上同

女子

母

資

母

上月

長

上月

石之通沙

高三百八拾石

近江國甲賀郡 本國伊勢
下経國香取郡 生國去交

石浦里谷内夜宿新倉

南村田谷小伊賀町稻倉

堀之内但同心村

寛政二年未年十月

孫山伊成

了 諸

系 譜

^{末子} 弘 張 造 河 守 公 也

^{弘氏} 九 百 三 拾 番 〇 堀 田 甚 末 子

小 普 清 組 弘 張 造 河 守 公 也

堀 田 甚 末 子

村上源姓 布氏北畠

藤山

村上三郎重成の子具平親重は後醍醐天皇に
権大納言雅家より奉承侍從任人北畠正盛
大納言村親三男北畠備後守宗春侍從出
藤山正成は依りて今藤山正成

と

幕後 五七右左衛門少輔

家後 左衛門少輔

藤山正成系春三男

資音

長吉

母 不知

妻 不知

年月日不知

右徳院保元元年 右右衛門尉

仁安元年 藤原氏

資正

八郎

母 不知

妻 不知

年月日不知

年月日不知

予一訪向大御公殿出所人等
又御公殿出所合後之旨 右通於甲列
知分二百之... 年月日... 出所

大御院存付代年月日... 大御公殿... 出所
年月日... 出所
年月日... 出所
年月日... 出所

資財

合分

予一訪向大御公殿出所人等
又御公殿出所合後之旨 右通於甲列
知分二百之... 年月日... 出所
年月日... 出所
年月日... 出所
年月日... 出所

資財

合分

大御公殿出所人等

大御公殿出所人等

予一訪向大御公殿出所人等
又御公殿出所合後之旨 右通於甲列
知分二百之... 年月日... 出所
年月日... 出所
年月日... 出所
年月日... 出所

年十月廿八日
年八月廿七日
年八月廿七日
年八月廿七日
年八月廿七日

資通

并序

年月日
年月日
年月日
年月日
年月日

資長

并序

某科孫九所為兒女

喜

松皮架平次直次女

寛文
天保
同
其
主計政組

辨方清細大... 作有新表... 申年二月... 八月... 法源院親堂

和

五ノ節

大新書... 某科... 延宝七...

母

延宝七... 海迎... 大坂...

女子

母

大ノ節

依楊... 佳重妻

資信

八ノ節

松田...

母

松波加平次道次女

妻

此後他故本姓也

相波伊之信直篤女

元禄七年戊午六月十九日没於其生也

宝永六年己丑年四月六日徒部命位大出番上書入

仕 作有以切取二百俵より至りて其後

の由姓名を知らずし相波邊に居りて其後

四己亥年八月廿六日父資長病死は同年十月

六日父没す其後 其後 其後 其後

姓名を知らずし其後 延享元年五月十三日

出川全助少輔相波邊に居りて其後 清入

作有長谷川久三郎之死は其後 相波邊

之死は其後 宝暦七年丁丑年二月廿五日病死は

年六十四年迄系福寺の法名

清採院系孝

一人常備相勸也二系左後主番社十夜相勸也

女子

母 相波加平次直次女

此新治友以不知境野八郎と高政と嫁ぬ

高政病死は其後兄資信長女を其資

信定と其子信直と相波 其資と相波信定

其資病死後其子と其子と相波 其資と相波

七月十二日病死は其年之相波年迄系福寺

葬申の法名 貞輝院妙法

平資 助十郎

養母

言平公

実父

乙辰の御書より
小林勘左衛門勝貞次男

実母

言平公

之文三丁巳年三月九日資信より言平公より
作付申宣保三壬申年六月十六日病死仁公年
石知知年迄多福寺に葬申上法名
涼峯院要親

資房

長次郎

養母

言平公

実父

新多功男信言平公
松波十郎貞次公男

実母

小善清貞母松波十郎
神田創次郎得親女

妻

言平公

宣保三壬申年十月廿日江戸に於て公の生母
右資房より使申遣し、漢文書より公の御成書
八廿九年三月四日言平公の御成書より
小善清組打平頼母之氏此成同人之氏也
同年六月八日大御書より公の御成書
右使申遣し、御成書より公の御成書

年五月十九日西九月廿九日
 正仁公三偏至孝帝德之
 通書者信在 作年相平
 四月廿二日新正香
 老衰仕
 入多願
 入心作年
 以及相
 正仁公三偏至孝帝德之
 通書者信在 作年相平
 四月廿二日新正香
 老衰仕
 入多願
 入心作年
 以及相

正仁公三偏至孝帝德之
 通書者信在 作年相平
 四月廿二日新正香
 老衰仕
 入多願
 入心作年
 以及相

後保

德五郎

母

家女

寛延十四甲申年六月十日大津藩在房也

但松安在在後辰吉子也

資睦

吉一

母

右目

貴兄資房吉子也

資睦

吉一

吉母

吉一

實父

源山八三郎資信三男

實母

家女

此書佐右源山三郎也

妻

秋山源三郎三清女

寛延三庚午年五月六日江戸上出也

私に書方より書之る貴子也寛延七年

十月八日貴父資房退仕也

月廿五日新色退仕也

私に書方より書之る貴子也

佐野肥前守也

寛延十四甲申年六月十日

女子

此書佐右源山三郎也
定家書

丹

家女

資久

長丁郎

丹

右目

石通沙斤山

高二百五拾石常陸國

内共信儀西苑原

本國行勢
生國或勢

内从在石川
同谷表之書了

寛政二三未年十月

雁山未定寺一色五

未定寺一
江紙造り

江紙
九百五拾石。堀田

系譜

七
法

小書信也

江紙造り

雁山

村之源姓 本氏北畠

藤山

村上三景、皇子具平親皇、後醍醐天皇正度
権大納言村親次男左中将顯雅四代孫北畠
備後守親資、曾孫藤山行房、後依
右今藤山理兵衛景春、改

指物、改 五七桐

幕、改 二ツ川

家、改 五七桐

智、改 横木凡

景春

北畠備後守親資後
藤山理兵衛、改

資佐

理兵衛

右資佐、承和、安永、本、外、書院、希松平信濃、
組藤山熊三郎書上申、

資友

平兵衛

母書

之知

生近江國山中

大融公御代資友、至資佐、後次男、至安永三年

九月三日辰時生於人杜若場小十人但宅同傳
 減組入延宝七年八月十日秋四年生但宅
 小善清交保依乃但宅入後坂元波乃但宅
 之保三庚午年六月七日死
 葬所 小石川柳町 祥雲寺
 号 長孝院音山天秀

春衛

母 之如

兼應二庚午年生江府延宝六年三月廿九日
 幼名信介 石出右衛門人杜若場小十人杜若

夫春衛但宅小善系七代の但宅元保元辰
 年十二月廿二日拂方也幼名
 一 父死在長父子同日之海月守其同也中
 年二月廿二日也長而保場也杜若方也
 子二百信之幼下守保五庚子年二月十一日
 具是牙乃同九甲辰年七月十四日也及杜若
 夫人杜若場一門十五庚戌年三月廿七老
 辞令少收端少善信小出伊成文氏入其子
 忠信所之死也長延享元甲子年七月
 廿七日死九十二葬所一守号
 辰以院豁然了性

景衡

年八序

母

家女

大島秋浦

妻

夏目九郎

元禄七年甲午年生江府

宝永六年己丑年四月六日長幼在江府大島番

屋代越中入地田如所長之文

三年年十一月廿四日方由御方須田

二席造見公知組入延享元年甲子年

七月廿七日父病死之由父子同子分終日

不事於石川信長所依田一子終日

延享二年癸卯年二月三日大坂小倉町家番

二月甲午年七月廿五日由小倉町家番

支取入板倉佐渡守及於家信

酉年六月堀田之信支取入日六

月十五日九十三

葉不口守号智月院白露通首

改有

信深

家女

母

家女

宝永六年己丑年三月廿八日小倉清和年

以之此高家文五席七改年

女子

元禄七年

三橋屋十席女

母

上同

資春

子

大所者松海也

母

夏目九郎左衛門

享保十七年子年生江府

宝曆二年申年左衛門、伊豆丹持之丞、侍、紙

子、家督、下、乃、交、想、願、除、之、江、有、堀、田、松、原

と、及、伊、原、松、山、四、郎、一、波、元、女、と、安、永、十、年、五

年三月十八日死五十一

葬所口寄号 本姓院天然妙尼

道八郎

景純

母

上同

幸喜

寛保二年亥年生江府

宝曆二年申年八月九日、次男、想、願、如、願

和年七、上、松、原、及、伊、原、松、山、四、郎、一、波、

門六、丙子年十二月三日、江、府、前、日、人、侍、一、小、番

清、堀、田、主、掃、三、郎、入、久、留、松、原、と、死、一、年

安永六年酉年七月十二日死三十五

女子

母

上同

寛政六甲寅年七月朔日辰外申六

資壽

少孫

年五十八

資母

資父

資母

資

此等色

三橋辰十郎整秀四男

小之但安友郎大之但

之之但安友郎大之但有女

小之但小之但安友郎大之但有女

柴田又十郎孝榮女

大妻寛政二庚

戌年七月離別柴田又十郎

辰外○室曆二奉己年七月十七日生江府

安永六丁酉年六月深更遠者子同年十月

八日泊月田江主殿侍之書清久為清

教子之既入天地少成之既之而天以甲

辰年六月十八日大清書文年辰清子但上入

兩井徳俊之但之天以八月申年八月淺幸

元多紙少外少安母及尺而坪余以天多紙

之入是言翁知上太之母少安果鴨籠在

外坪叔少而坪余之坪封者事於同年清

如預之 作付也於初也但之而寛政

二庚戌年七月十九日小書清但信田安慶

之入之既入和年智水之反信柴田所屋也

去比ノ節 口七廿年乙卯四月廿五日 東野祐房
不知何所 用分口所ノ二百六十坪 全ノ場
所ノ善化場ノ口九丁 乙卯六月十日 佐佐
礼前ノ善化場ノ口十四年 乙卯十二月廿六日 野
道ノ善化場ノ入

資景

伊織

小主人但小太郎色但氏

定田平行孝是女

資徳

洋子

母

上同

女子

小者清和色但氏
子室五郎改名忠順

子室安左郎改名忠孝

母

上同

高木晋儀

本國伊勢 生國重房

伴成色

東野祐房

高木市谷長延寺谷高室富五郎伴成

高木市谷長延寺

寛政十一己未年

藤山平定 丑
未二十九

申
壬四月廿四日
山崎定重行

系譜

古舟本
三
冊

流氏
十三百拾八番。坂田書房

河代官

一條山十之清

伴氏

藤山

先祖宗茂後宗直是利義輝公代近江守
甲斐守邦大守左兵衛尉丹后守景元之尉以平大守
文龜年中嫡子大守左兵衛尉景元之尉以平大守
孫世山天守五年今之藤山字茂申也

藤山

藤山

藤山

藤山

乃任令三十三代

桐

三川兩

桐本丸

本丸三川兩

景光

大守初代

藤山

近江守甲斐守大守左兵衛尉丹后守景元之尉以平大守
軍是利義輝公之尉以平大守左兵衛尉丹后守景元之尉以平大守

景光

大守初代

久龜年中改大守左兵衛尉

景春

藤山

天正十五年改大守左兵衛尉

母事

子事

始城田信長早於士令以兵 百把府宗法也
 方亦仁信長之後羽柴筑前守秀吉仁長久手
 討信雄之弟通秀吉象初年信長所誑教務
 品家氏秀吉仁信長七年
 祢津所上座刻於因法法曰信長信則於割割國
 山所業內移知者信長有之信長仁信長中村
 織道吉之宗春之弟也信長仁信長七年
 信田吉之弟信長仁信長七年信長仁信長七年
 其後信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁
 其年宗勝多進信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁
 龍水口法為信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁

仁信長仁國城上信田信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁
 信自丈信見城上信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁
 孝節宗尚二曰此美月朔日信長清節子不
 將軍相平之反物求大之始表信長仁信長仁信長仁
 宗春父子信竹村高宗始由上村信長仁信長仁信長仁
 家中之村信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁
 雲江列信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁
 信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁

景尚

好妻

子名

信長早於信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁信長仁

崇長三百年

神君於慶元元年正月五日庚午十二日賜

祐君真如沙羅河河川月見仁上人持持之書

北持十人一人者各一人三人持持之書

元長三年八月朔於彼人致死信

花岳宗宗口守之解方之

資整

母喜之知

源山熊三郎家

景未

北下之知 北下之知

母之知 喜之知 望月律之知一重女

崇長五年生月早受於之北下村園之系房之

父去而受其之北下村園之系房之

地持之人之書之之書之之書之之書之

之後去方折御之御之御之御之御之

大坂市河原地持之連之供之供之供之

之寛永九年七月始奉府信知山之計之

持田之書之御之

但此所 持田之書之御之 持田之書之御之

沙良遠背... 廣永九年四月廿二日... 号深春降寺

景里

再望月... 喜... 元祿七年生... 早野於田得村

寛永十九年... 寛永二十年

坂於... 寛永二十一年五月...

以所... 萬治四年... 萬治四年正月...

景月

寛文十年三月... 寛文十年三月...

女... 上同

女
口徳方
能奉之為宗信喜

母
上同

資後

長十郎 始室和

母
山崎氏女

喜口徳望月八郎之為治重女

寛永十八年生

寛文元年四月出家智坊於三子所但名之為

三年十月九日初年正月七日他之資後之

佛願之享保四年神保之居他之資後

所及之享保六年正月由諸方明之資後

政元之如正統之居之享保九年

三月六日死八十四之葬江下平野大湯口寺号

梅若洋田

十張谷

景保

世山十左衛門

母

上同

喜

如江合之女

寛永十年江列屋敷田江村之世山氏

妻之為子享保六年正月十七日死

景秀

伊左

母

望月氏女

實 江列早多秋 田代村令土 世山十五景保男

實母 坂法氏女

妻 口但月付の如重頼女

貞享二年生江列早多之孫十二年物ノ後孝
享保七年疾智神保之孫但力孝保三年
四月日克法保實保三年老輝法拓門年九月
廿四日死年十九才葬門守号敏教乃

景後 元十郎

母 平月氏女

妻 西尾中尾氏乃 海野源左景江女

室永五年以學生寛保二年十月家智百人組
博内起高徳乃寛延四未年十月廿九日死
年十九才葬日本号生良銘乃

系元 為田年太 上同

母 青山之孫色亦士為田中為孝乃子

女 山崎之孫乃 馬場法定妻

系定 為田年太 如法乃

母 海津氏女

妻 大石乃 藏田三左乃女

田加多... 湯令... 寛政十一年四月十二日
 大坂玉造... 湯令... 湯令... 湯令...
 相部... 湯令... 湯令... 湯令...
 羊相... 湯令... 湯令... 湯令...
 到四月... 湯令... 湯令... 湯令...

京一 上同

景光 新三郎 上同

女 母 上同 高木洋平政奉書

女 母 飯田氏女

右通、沙行公... 湯令...

高言... 湯令... 湯令... 湯令...

内 百俵... 湯令... 湯令...

寛政十一年三月 海山十兵衛 卷

四十七少

五月廿七日
松平之沙以分封

松平氏
千五百七拾番。堀田之次

先祖書

百拾番
松平
後新

甲府藩士
松平之沙以分封
真乃五平次

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

後原姓

真方

房本有長、志孫實方朝臣、後胤實方
朝臣東國下、時津久井氏、女、為嫁、嗣子
為誕生、童名、名、十代、高曆、後、号、實方、平
治、四、方、代、相、列、住、住、家、名、實、方、と、稱、五
平、次、四、我、時、依

上、意、真、方、と、改、中、也
家、と、改、地、内、追、令
皆、と、改、地、内、追、令
幕、と、改、地、内、追、令

真方、孝、次、三、方、長、男

正義

相、知、生
年、月、日、之、知、お、田、系、知、也

神、君、清、上、條、系、実、之、系、出、信、仁、年、月、日、之、知、津、久、井

領、乃、由、此、也、右、上、乃、氏、比、於、武、藏、國、以、至

於、六、十、子、村、知、行、子、而、為、孫、也、此、其、餘、也、下、至

此本下以載仕今以下其仕の太史本下字
 而力在んは其の少中餘之
 用及地及合百其少中
 餘し了今其物し況全
 一知修者之
 寛永十一年正月 卯年平
 年月日之知及幼於所之知病死下谷光徳
 不法其奇其號号
 良久日長

正信

初壽太師

後之病

母

不知

喜

不知

相模國形所之知知生

其二十九年申定年同日二十二年其太師者其生
 仕之候少人組其番下 作有し其後四年生年
 三十四日其命所之知病死年其知其地上日
 号道園

正也

初定し加

後之病

母 喜

年五以 去年年、細名宗之孫女

江戸生

正保四年十二月廿七日春田屋為但年月日
不知小十人但亦番入也 你身兩宮權為但世
成之孫也 己年月日不知也 百六十五系
斗餘身列也 五郎子付之 下句也 知恩
場身取之 五郎切末百中身後也 知恩
之孫也 去年五月十日江戸之病此年之
知華化上門号 凉通

正保

年五以

年五以 去年年、細名宗之孫女

母 喜

年五以 去年年、細名宗之孫女

江戸生

正保四年七月廿七日春田屋為但年月日
不知小十人但亦番入也 你身兩宮權為但世
成之孫也 己年月日不知也 百六十五系
斗餘身列也 五郎子付之 下句也 知恩
場身取之 五郎切末百中身後也 知恩
之孫也 去年五月十日江戸之病此年之
知華化上門号 凉通

組長成月十八癸丑年九月廿八日病卒年九
之海不獲佳報相平以厚吉組長成月九甲
丑年九月廿八日病卒年九之海不獲佳報
注名勇心口道

正氏

初冥市 後之身元

母

牛人 難水江一節為宗三知女

妻

揚田四郎吉改吉 酒井源盛元宗三女

後妻

大重房元元 内友甚方節三利女

江戸之生

安永六乙丑年四月廿日終年八十八 百六

少切年而名居傳之至十人徳之書石

作身和年海龜の但此為享保十四年

二月小念少麻物内供仕村原山麻物願仕

日十二申年四月 日光河秋系以供仕

支交金白紙十枚好仕以享保十八癸丑年

二月二十人等以之 作身日十九甲寅年

九月朔 昔月十音又記自秋之身是享三乙丑年

有徳云ふ所實延四年未年六月廿日葬清

身同年七月十日一洗少番信建於氏部
 少補之氏族成室曆五丁亥年八月廿六日
 清平丸涉表以一番之氏女作伴以是言
 之也金安水三年年三月六日老養身
 形之也而後以九年身之也其幼以身之也
 其美令少及除任仕小番清旭城之六郎
 子之氏也其門四丁亥年十月廿六日戸之病死
 七十二葬化上向位名雷心日行

女子

母

行長元孫
 守山八十郎
 守山八十郎
 守山八十郎
 守山八十郎

養女

一橋相次

守山八十郎

實父

秋元但子

林書房

實母

二知

女子

母

上向

宮城親貞羽雄妻

包高

母

上向

妻

中川市助忠要女

印字公出生

延享元年三月七日卯辰初

有德公行月見仁室曆十二年九月廿八日

任不仕 正和初年西儀之五太極西入

任不仕 任不仕是子而儀之五太極合昔儀成田

任不仕 任不仕是子而儀之五太極合昔儀成田

三月十七日新正番番番番 任不仕是子而

下五多任不仕但此改日四丁亥年二月廿日

此之於此是大的上儀之五太極合昔儀成田

安永丁亥年十二月廿二日又任不仕是子而

任不仕是子而儀之五太極合昔儀成田

令法二十枚而任不仕是子而儀之五太極合昔儀成田

家二行形之無不番清但之為清數之是任

如日九亥子年十二月廿九日任不仕是子而

任不仕是子而儀之五太極合昔儀成田

亥年三月廿利發任不仕是子而儀之五太極合昔儀成田

正歲 初年命 後一博研

任不仕是子而儀之五太極合昔儀成田

果 弟 弟 弟

中川市助忠要女

女子

母

貴章

初生

上同

五年

春母

春母

安父

河村平定氏

安母

安女村山氏

妻

之

江戸

安永七年二月廿四日

高杉玄高

十九日

作有宗

安永七年八月廿六日

安永七年

九月廿日

安永七年

二月廿八日

安永七年

九月十日

安永七年

三月廿九日

安永七年

二月廿日

安永七年

二月廿日

安永七年

二月廿日

安永七年

二月廿日

安永七年

正豊

母

家女

喜

女子

母

家女

正娘

母

上同

右通：沙江公以之

高百五拾五俵

本國相模
生國武藏

尾浦甲府政内新子
少治

文化元甲子年七月

真方幸治

未三月廿八日

堀田之居公出

長年氏

于西院看

堀田之居

系譜

安永八

之

復形

小書信堀田之居之氏

古井屋敷門

夏原氏

志丹氏

先祖今海流流之年致燒之良書物未燒
矣仕也春父理管下之任年月日之如

無之紋

丸内之籠子

幕之紋

丸内之川

彌勝

惣戸

喜

家女

神君五十年年伊賀沙山致之り此の良書物内

申上伊勢白子之信徳は沙山切之り同年有

尾張の海山切之り右書勝於伊年有初

江府 沙山國之信徳仁

右徳公河代寛永九年乙丑年乙丑二年相勅采之如

月台病死仕榎町宗三寺山華法名出家

智貞之申也

彌儀

惣戸

母

毎目之如

喜

家女

大猷公清代寛永九年正月臘於中組之父也嘗の以武
 之口也口年十二月十日沙地奉の宛助之街
 但刻入也 作申即書沙地其の作申也
 出社同心組以申助寛文三年と二十一年相
 初年之祭十月八日病死其口等、葬号
 長卷洋心

粥改

七片

教有公清代寛文三年三月廿日世世其の宛助書
 母 不知
 妻 家女

但之弟父長卷の以武之口也也其口人但口也但口
 其幼之孫六十年と二十二年申助其之口二
 月朔日病死其口等葬号也其卷之口念

粥志

寸片

養母 不知
 実父 平野之口
 実母 不知
 妻 家女
 常憲公清代之孫也西年二月廿日世世其の宛助書
 其卷之口也其卷之口也其卷之口也其卷之口也

此江府公身父方恒實遠く徳上人壽長子年
以延暦二年二月初旬病死同日廿七日或下
至以省門人中後世一人徳心抄初之後在春
長之節組之邊以人而後世之身長壽長也
所下門十三七年年十月廿九日清代金下
至以省古包相序之反也書有別之江府公
天野江左之身長門十四己年五月廿七日
長九節組之序 所下九卷式修實也
此為多坊和年之計以中後世實也之五年四
月六日 竹根君係二九也此後後人長也

法徳仁沙口所住聖者抄初正徳二年三月
廿二日或述如抄書也 仰付く名於院大
し不敷川抄書反也 仰付く名於十八年
三月廿二日西元表火也 仰付く名於甲
御年之反也 仰付く名於公四年年動
病年之反也 仰付く名於二月九日或也
小書清入也 仰付く名於反所自付
布施抄書也 仰付く名於抄書也 仰付く名於文
元辰年七月廿七日或也 仰付く名於替身年
七月病死年之反也 仰付く名於抄書也
古淡院所不察也

河英

徳友助

深谷

長母

之知

実父

之知

実母

之知

妻

之知

後明公所長父也井原公の男子高野村に生れ

之は長父の長子也其母は高野村に生れ

子也 母は高野村に生れ

以後は母の長子也其母は高野村に生れ

以後は母の長子也其母は高野村に生れ

以後は母の長子也其母は高野村に生れ

井原村の長子也其母は高野村に生れ

七年七月廿七日 井原村の長子也其母は高野村に生れ

菅原公孫孫氏女日六亥年八月堀田之孫
子氏抄成

女子

真井深登の御養女

女子
母

家女

保願公孫孫氏女日六亥年八月堀田之孫
子氏抄成

右ノ通
子氏抄成

高三格儀少杜持
本國伊賀 居少友
生國系 存保 尾張坂上比 自任

寛政三年

真井深登の御
未年四月二十日

[Faint, illegible handwritten text on the left page]

[Faint, illegible handwritten text on the right page]

